

## (度会系) 亀田大夫家系譜

亀田家は、1797寛政9年【伊勢路見取絵図第二巻下 小俣・山田・宇治】に亀田加賀と亀田要人が西河原(現、宮後町)在住記載があることから、度会神主系(9家)の内、檜垣(西河原)系の非重代家権禰宜家の叙爵家であろうと思われる。

	荒木田あらきだ氏	度会わたらい氏
権官家 重代正禰宜家	天見通命(皇大神宮禰宜)末裔で 荒木田神主系(9家): ①澤田・②井面・井面館・③藺田敬・藺田西 ④中川昌・⑥藤波(大藤波)・藤波(小藤波)・⑦佐八	大若子命(神國造代神主)の後裔で 度会神主系:(9家) ①松木(田中)・松木(セウキ)・②檜垣(一之木)・檜垣(大世古)・ <b>檜垣(西河原)1・檜垣(西河原)2</b> ・③宮後・④久志本(四谷)・(東)久志本
非重代家権禰宜家異姓家	(8家) ②井面権・③藺田内蔵允・藺田伯耆・藺田新・④中川兵庫・中川玄蕃・中川新・⑤世木大炊	(10家) ①松木大隅・松木越後・松木兵部・松木阪井大夫・② <b>檜垣</b> 左兵衛・ <b>檜垣</b> 内匠・檜垣金屋大夫・④久志本縫殿・久志本兵庫・⑤河崎織部・
非重代家権禰宜家叙爵家	(17家)堤・岡田・榎倉・林・高田・村山・松尾・中西・坂など	(33家) <b>亀田</b> ・橋村・中山・廣田・出口・上部・福井・福島・村山・黒瀬・中山・松尾・橋爪など
分家(社家)	禰宜となれる家(重代正禰宜家): 著名人 早い時期、首麻呂の孫の代に2門に分流 一門: 佐禰麻呂の系統 本拠: 度会郡小社曾根(現、玉城町) ①沢田家: 泰綱 明治22年遷宮取仕切 ②井面イモ家: 守雅 本居春庭門人 ③藺田家: 守良 神宮炎上 二門: 田長舩サの系統 本拠: 度会郡田辺(現、玉城町) ④中川家: 経雅 江戸時代の神宮学者 ⑤世木家: 忠元 内宮長官 ⑥藤波家: 氏経 内宮長官 ⑦佐八家: 定長 本居宣長門人	禰宜となれる家(重代家正禰宜): 著名人 乙乃子命から4門に分流、 その後の6家との関係は家系図では不明 二門 正員禰宜家: ①松木家: 偉彦 明治22年遷宮取仕切 ②檜垣家: 貞董 外宮長官 ③宮後家(度会姓袴田コタ): 朝喬 外宮長官 ④久志本家: 常庸 外宮長官 ⑤河崎家: 延世 外宮権禰宜 ⑥佐久目家: 「考訂 度会氏系図」元徳年間 1329~31 年から安政3年頃の分類
著名な人物	荒木田守武: 室町時代の連歌師・俳人	度会家行: 度会神道 出口(度会)延佳: 宮崎文庫創設
叙爵	1890明治23年 荒木田(沢田)泰圀 男爵 1872明治5年~1942昭和17年	1888明治21年 松木美彦 男爵 1850嘉永3~1905明治38

会合家・三方家より位階上進のため神宮家より養子して荒木田・度会姓となり、五位権禰宜を世襲するものも多く、これを叙爵家という。この場合は二重戸籍で神宮では実家の姓を、政務に関しては養家の姓を名乗った。

### 亀田家は今川義元の御師だった

郷土史研究家千枝大志氏談が三河で発見した史料(売券)には、「亀田氏が今川義元の御師であったが、今川が織田軍に破れてから家臣が散りじりになり亀田氏が持っていた三河駿河の檀家を他の御師に譲渡した」との記載があったという。

### 【生没年比較】家系図が作成できるほどの資料がない

末雅 1760宝暦10年~1823文政06年

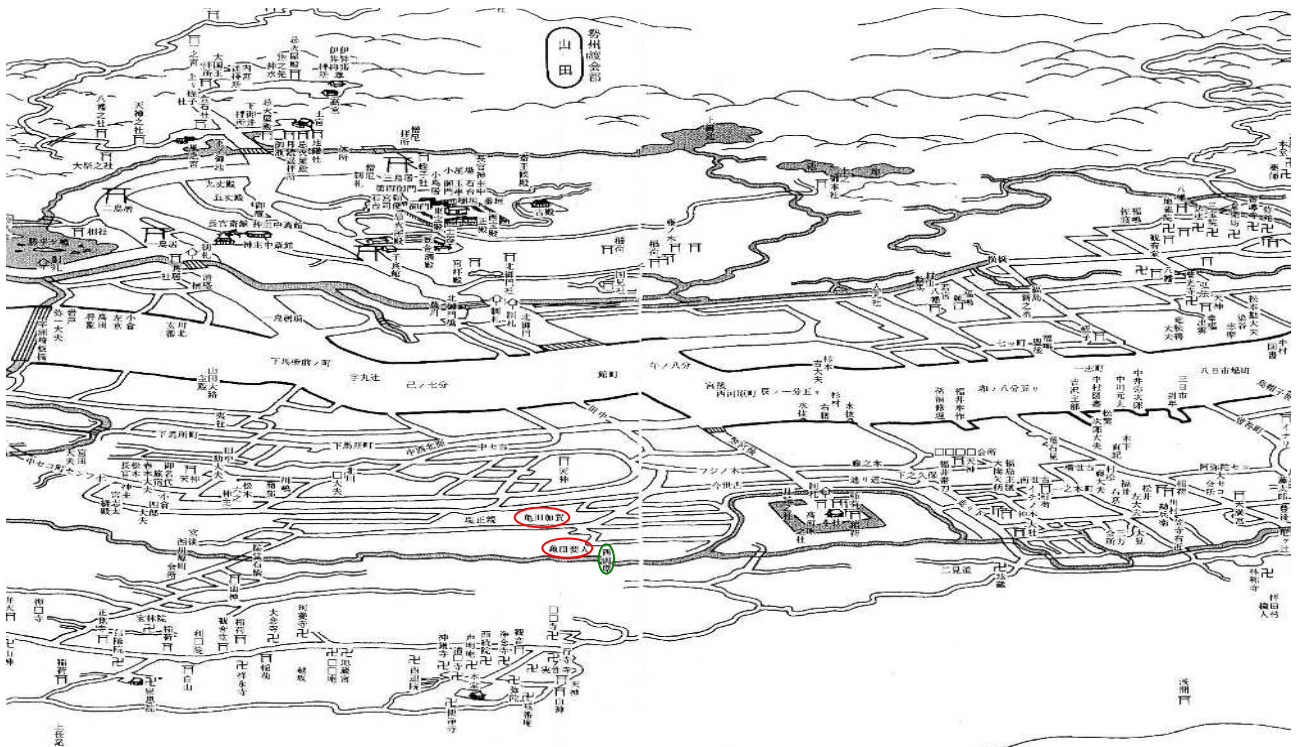
(30年後) 兀庵 1790寛政02年~1864元治元年

(60年後) 三衛 1850嘉永03年~1910明治43年

(8年後) 末通 1858安政05年~1888明治21年

秀頼?

末の字が付くのは亀田家本家か?(本家)末雅—末肇?—末資—末通、(分家1)秀頼、(分家2)三衛



1797寛政09年【伊勢路見取絵図第二巻下 小俣・山田・宇治】

伊勢度会人物誌より【**亀田家**】 末の字が付くのは本家か？

### 亀田**末雅** すえもと

【生没】1760 宝暦 10 年生～1823 文政 06 年没 享年62歳 【墓】大世古

【続柄】藤原重冬の三男が 1830 天保元年亀田家の養嗣となった？

【住所】**四谷** (1797 寛政 9 年伊勢路見取絵図(**西河原**))

【通称】**加賀**、卓重、**左衛門** 【字】敬父 【号】寄生園

【位階】従四位上 【職位】外宮権禰宜

【事蹟】外宮権禰宜。従四位上に進んだ。詩文に**長じ**、日本詩史に名を連ね、足代弘訓も律令を学んだ。

### 亀田**加賀** かが

(1797 寛政 9 年伊勢路見取絵図)(**西河原**) 末雅と同一人物？

### 亀田**兀庵** ごつあん

【生没】~~1662 寛文2年生～1864 元治元没の記載はおかしい~~

1790 寛政 2 年～1864 元治元没 享年 75 歳 ~~or 1662 寛文2年生～1736 元**文**元没~~

【住所】**西河原** 【墓】大世古 【号】兀山 【職位】外宮権禰宜 【余技】狂詩

### 亀田**要人** かなめ

(1797 寛政 9 年伊勢路見取絵図)(**西河原**)

### 亀田**末肇** すえはじめ？

【続柄】(末雅の直系？) 【住所】**四谷**(**宮後**) 【余技】詩、文

# 亀田末通 すえみち

(+1879 明治 12 年御師取調帳)

【生没】1858 安政 5 年～1888 明治 21 没 享年 31 歳

【続柄】末資の男（末雅の直系？）明治 8 年家督相続 造船学

【生地】西河原【住所】岩淵町 12 番屋敷（三日市大夫と同居所）三日市氏養嗣

【通称】正五位末生【位階】正四位【家格】町年寄・士族【職階】外宮権禰宜

【祓名】亀田大夫【配札国】相模、武蔵、山城（京都）、丹波（京都中部）【初穂料】406 円

【事蹟】幼くして父母を亡くし、舅三日市氏に養われ、11 歳にして郷校に入りて学び、明治 9 年上京、工部大学に入りて造船学を専攻した。卒業後、兵庫工作局に就職し、翌 17 年病を得て帰郷し、三日市氏に寓して病を養い、その間、修業学校で教鞭を取り、また大湊造船所主市川源吉氏を扶けて新型船築造に専念したが、不幸にして夭折した。当時の学友や知人により建てられた碑が 1 昨年（出版当時）高源寺に移された。

【推測】位階が高位であることや「末」の字が継承されていることから【本家】ではないか？

神職としての活動はなく、御師の活動は養家三日市氏に任せて造船技師として活動していたと思われる。

御師の規模は丸岡大夫初穂料 448 円と同等か？

## 旧師職総人名其他取調帳（明治 12 年）

<p>岩淵町十二番屋敷</p> <p>三日市大夫次郎同居</p> <p>明治三年八月</p> <p>通称 正五位末生</p>	<p>元師職士族 亀田末通</p> <p>明治八年九月廿七日</p> <p>家督相続仕候</p>	<p>旧家格者町年寄 御一新際被免</p> <p>旧位職者代々豊受太神宮権禰宜奉職被叙正四位候事</p> <p>一配札國郡</p>	<p>相模國</p> <p>足柄郡ノ内 七十ヶ村</p> <p>大住郡ノ内 八十八ヶ村</p> <p>愛甲郡ノ内 二十八ヶ村</p> <p>高座郡ノ内 二十一ヶ村</p> <p>津久井郡ノ内 壹ヶ村</p> <p>東京ノ内 拾六戸</p> <p>山城國</p> <p>西京ノ内 拾六戸</p> <p>葛野郡ノ内 壹ヶ村</p> <p>愛宕郡ノ内 三ヶ村</p> <p>久世郡ノ内 壹ヶ村</p> <p>乙訓郡ノ内 壹ヶ村</p>	<p>武蔵國</p> <p>東京ノ内 拾六戸</p> <p>山城國</p> <p>西京ノ内 拾六戸</p> <p>葛野郡ノ内 壹ヶ村</p> <p>愛宕郡ノ内 三ヶ村</p> <p>久世郡ノ内 壹ヶ村</p> <p>乙訓郡ノ内 壹ヶ村</p>	<p>丹波國</p> <p>桑田郡ノ内 三ヶ村</p> <p>多氣郡ノ内 五ヶ村</p> <p>船井郡ノ内 卅三ヶ村</p> <p>何鹿郡ノ内 十六ヶ村</p> <p>右何レモ亀田大夫銘</p> <p>配札高壹万八千九百貳拾七体</p> <p>此初穂料金四百六円七拾九錢壹厘</p> <p>純益金四拾九円廿三錢</p> <p>一神樂料</p> <p>相模國 大住郡ノ内 金百五拾円</p> <p>此料金百五拾円</p> <p>純益金三拾円廿五体</p> <p>一止宿料</p> <p>此料金百十六円六十貳錢五厘</p> <p>純益金貳拾三円七錢五厘</p> <p>収入金總計金六百七拾三円三拾一錢六厘</p> <p>純益金百貳円五拾五錢五厘</p> <p>一師職加入ノ年月</p> <p>右者年歴ヲ經過シ目今詳細之義者難取調候事</p> <p>一十二年六月御扶助拝戴</p>

## 亀田秀穎 しゅうえい

(明治12年御師取調帳)・・・御師株は保有、活動なし。三日市氏同居

【住所】岩淵町12番屋敷(三日市大夫と同住所)【通称】正五位秀穎・亀田左衛門

【位階】正五位【家格】町年寄・士族【職階】外宮権禰宜【祓名】亀田大夫 御師活動なし

【推測】位階が高位であることから亀田家の上位の分家ではなかったか？

神職・御師としての活動はなかったが三方会合(自治政務)での活動はあったかも知れない

## 亀田怒心 どしん？

【別称】善左衛門・・・秀穎【通称】左衛門と同一人物か？

【余技】神道家【著作】亀田怒心聞書

### 旧師職総人名其他取調帳 (明治12年)

一 旧家格ハ豊受太神宮権禰宜正五位町年寄家ニ御座候事	岩淵町十二番屋敷 三日市大夫次郎同居 明治三年八月 通称正五位秀穎	元通称 亀田左衛門
一 配札料 無之	元師職 士族 亀田 秀穎	亀田大夫 一株
一 神楽料 無之		
一 止宿料 無之		
一 師職加入之年月不詳		
一 十二年六月御扶助金拝戴無之		



さんえ さんえい

【生没】1850 嘉永 3 年生～1910 明治 43 年没 享年61歳

その時に藤原家は廃絶し【祓名】藤原大夫を相続したか？

(1823 文政 06 年没 **末**雅も藤原重冬の子男であったが 1830 天保元年亀田家の養嗣となった？、と思われるので亀田家と藤原家の縁は深そうだ？)

【位階】從六位 【家格】師職年寄・**平民**

【祓名】亀田大夫・藤原大夫 【配札国】摂津(大阪)、播磨(兵庫)、伊勢 【初穂料】129 円

【推測】位階・家格が低位であることから亀田家の下位の分家ではなかったか？

神職としての活動はなかったが御師として活動していた。三日市大夫初穂料 6,574 円、との比較から三日市大夫家の 1/50 程度、末通家の 1/3 程度の規模だったと思われる。

外宮末社上御井神社【祝部】を務めていた理由として、外宮権禰宜家が、神職として権禰宜より格下の【祝部】を務める事は考えにくい。摂社・末社の【祝部】は無位の三方年寄、平師職のうち他の扶持を受けず、商売をしていない者からなったこともあった、というのに相当するのではないか？

旧師職総人名其他取調帳(明治12年)

宮後町百廿八番地

元師職

明治三年八月  
龜田三衛

平民 龜田三衛

龜田大夫  
藤原大夫 両銘一株

家格

一旧師職年寄家

元二門度会姓累代権祢宜ニ補任、安政六年ニ至リ嗣

子無之ニ付外甥之私看財相続仕豊受大神宮末社上御井

神社祝部勤仕

一配札之國郡

摂津國 有馬郡ノ内 貳ヶ村

同國 八部郡ノ内 貳ヶ村

播磨國 加古郡ノ内 壹ヶ町  
十二ヶ村

同國 美囊郡ノ内 十六ヶ村

同國 加東郡ノ内 十二ヶ村

同國 印南郡ノ内 三ヶ町  
七ヶ村

同國 加西郡ノ内 壹ヶ村

同國 神東郡ノ内 壹ヶ村

同國 飾東郡ノ内 三ヶ村

西京市中ノ内

以上龜田大夫銘祖先伝来

伊勢國 鈴鹿郡ノ内 壹ヶ村

同國 桑名郡ノ内 四ヶ村

大阪市中ノ内

以上藤原大夫銘

右八天保元年十一月藤原氏ヲ分家スルノ已前譲受

配札高六千七百鉢

夏冬二季頒布

此初穂料金百貳拾九円貳拾錢

明治三年分

純益金七拾八円三拾五錢

一神楽料

同上

当年度無之

一止宿料

此料金五拾七円六拾錢

同上

純益金貳拾七円貳拾錢

收入總計百八十六円八拾錢

純益總計百五円五拾五錢

十二年六月御扶助金拝戴

明治四年七月師職廃止之後平民籍工編入

## 亀田三衛は外宮末社上御井神社祝部

### **【上御井神社】**かみのみいのじんじゃ

(伊勢神宮 外宮所管社)所管社4社のうち第3位である。年の初めの若水をはじめ、毎朝神職が一桶分を奉汲し、神饌の御料に供している。社殿は無く、二重の板垣に囲まれて「御井覆屋」が上御井を覆っている。祭神は上御井鎮守神(かみのみいのまもりのかみ)御料水の守護神。外宮神官家の度会氏の遠祖が高天原から日向国高千穂峰に持ち下り、丹波国天の真名井に移され、豊受大神の伊勢国への鎮座に伴い、井戸も移ったという伝承がある。外宮の宮域内、末社の大津神社のさらにその奥に鎮座するが、一般の参拝者が立ち入ることができない場所にあるため、付近から遥拝する。山田工作場の入り口付近から上御井神社の覆屋の屋根を臨むことができる。

### **【祝部】**はふりべ・ほうりべ

神主や禰宜の指示で祭祀の準備や儀式の実務、神楽の舞などを担当するほか神宮の摂社・末社・所管社に置かれ、守衛・掃除などを監督した(1913大正02年に設置)→20名

明治以前でも摂末所管社を管理した、権禰宜に次ぐ神職であったと思われるが不明確！

現在は摂末所管社の管理をする者として同職名はあるが正式な神職とは見なされないかも？

## 亀田三衛(号:対水)は四条円山派の上部菫斎の弟子 落合月槎に師事した画人であった

【画を上部菫斎及び落合月槎に師事】とあるが、菫斎は 1862 文久2年(対水 12 歳)に亡くなっているのに、菫斎の弟子月槎に師事したものと思われる。

四条円山派とは、写生的画風の円山応挙を祖とする円山派と、与謝蕪村の文人画(南画)を基礎としている呉春を祖とする四条派を合わせた呼び名。

## 上部菫斎 うわべ せっさい

【別称】光濟、雅楽之助、子海、横渠

【生没年】81歳 1781 天明元～1862 文久2

【生地】上中之郷(現:常盤町)【住地】大世古

【系譜】橋村正均の子、上部光映の養子

【略歴】外宮権禰宜、正四位下に至った。また茶にも優れた。

【書画暦】四条・円山派。幼より画を好み、兄に従いて狩野派を学び、後、岡村鳳水の門に入りて円山の画風を伝えた。曾て尾張に遊び、嘉泰院陣居中が画く所の隋陸宮図を模写し、大に悟る所ありて其技益進み、画名一時に高くなった。ある時二見浦の真景を摸し、之を鷹司殿下に献じたるに、遂に天覧に入りて観感浅からず、之を禁中に止めさせられ、更に勅して亀鶴貳幀の図を描かしめ陽ふた。この光榮に浴して以来天覧の印を捺した。門人百数十人あり、林棕林、鈴木柳亭、落合月槎、橋爪斗山、廣田篁齋(正陽)、松田雪柯、水溜米室等其尤たるものである。又茶道をも能くした。

## 落合月槎 おちあい げっさ

【別称】俊明、夙夜

【生没年】88歳 1811 文化8～1898 明治31

【生地】大野木村(内城田)【住地】岡本

【系譜】中西某の子息【略歴】

【書画暦】四条・円山派。上部菫斎の門人にて円山派の画を能くし、資性温厚、門人を教育するに妙を得、其下に逸材を輩出した。



『浦島太郎』 玉木町飯嶋氏所蔵